
大吉しかないおみくじ

篠原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大吉しかないおみくじ

【Zコード】

Z9515D

【作者名】

篠原

【あらすじ】

今年で東大受験4年目。そんな不吉な数字にも負けず、俺はあるにつくき受験会場へ！しかし、その前に・・・

チャリーン

パンパンッ

「（次こそ…東大うかりますよーにッ…）」

今回で4回目。田舎の親からは今年で最後にして帰つて農業を手伝えと昨日電話があった。それはつまり俺に落ちりつてことか。4という不吉な数字にも負けず、今回は小さいが有名な神社にもきてお願いをしにきたんだ。

絶対今年こそ受かつてみせん！

「つても、受かるかなあ…俺…」

とりあえず、おみくじ引いてかえつて勉強するか…。
でもこいつ時凶とか吉とか引いたらなんか泣きたくなるよな。

そつ思いつつ、時期できに少々おかしいがおみくじを引きに行く。

100円入れて、受験用の運気をあまり使わないためにも一番上にあつたものをぱっととる。

「（これで凶だつたら母さんに土産でもかって帰らつ…）」

最初からあまり期待をせずには開けてみたが

「これつて…大吉…？」

期待が少なかつた分、少々嬉しかつたりする。

じゃあ、とつあえず「コレせ・・・

「えっと、確かこれって木に結ぶんだっけな・・・」

とボソソと呟いたつもつだつたんだが・・・

「それ、結ばずそのまま持ち帰つてはどひですか?」「わあ!-!-?」

び、びつくつした・・・なんだこの神主。昔は兵隊でもやつてたのか・・・?

氣配無く近づいてきたのは「」の神主だつた。

なにかと思つと、俺が持つてこぬおみくじをわすとむつ一度

「それ、結ばず持ち帰つてはどひですか?」

そつと同じことをいつた。いや、別に老人でもなくまだピチピチ20代だから聞こえますつて。

「え・・・なんか」利益とかつてあるんですか?「

とつあえずそこまで言つただから理由があるはず。一応きことつたほうがいいだらうな。

「いえ?でも木に結んでしまつたり、自分で持ち帰つたほうが嬉しいですか?」

理由そんだけかよ!-!?

これでも二十歳過ぎた野郎が大吉おみくじ引いて喜んで持ち帰るほ

ど幼心は持ち合わせていないのだが……

「え、でも「一木に結ぶ」とことあるっていいますよ
ね?」「まあ、そういう噂もありますね」

伝統、噂扱い。「イシホント神主か?

ハツまさか、コイツの子供も東大うけるってんで俺を蹴落とす算段
か?

とりあえず今は持ち帰って後で結びに来るか……

「わかりました。親切にありがとうございます。では、俺は勉強が
あるので」

「東大受験、頑張つてくださいね」

やつぱりな。その手はお見通しだつつの……

しかし、そういうて帰つた後不思議なことが立て続けに起つた。
今まで部屋をひっくり返す勢いでさがしたはずなのに見つからなか
つたシャーペンが机の引き出しから見つかったり、なくしたと思つ
ていた必勝鉢巻がふとんの下にあつたり、勉強が異様にはかどつた
り……

そんなことが立て続けにあるもんで、俺はおのみくじを結ぼうにも
結びにいげず、そのまま受験当日、受験会場まで持つていった。

数日後。

ついに結果発表の日

今もクセか本能かあるおみくじを持ってきたが……

とりあえず群がる人を搔き分け自分の番号を探す。

中には見終わって泣いてかえるものも居れば、喜んで抱き合ってい
るやつもいる。クソッ蹴飛ばしてやろうか・・・

そう思ひつつも一生懸命自分の番号を探す。

あつた

「よつしゃあ――！――合格――！――！」

意気揚々と帰り、田舎の母さん父さんに電話して落ち着いたあと、このおみくじを引いた神社に自然に足が向かつた。

何故口々に来たかわからずぼーっと鳥居をみているとまた

「受かりました？東大」
「のつあ！！？」

氣配無く神主のオツサンが近づいてきた。

俺も非常識な人間ではない。

「あの、アドバイスありがとうございます。おかげでうかりました」

—ああ、それはよがつた。

「コレってなんか意味あつたりするんじやないんですか？やつぱり」

あればどう考へても奇跡にしては出来すぎだと思つたから聞いてみ

たんだが・・・

神主は笑つたまま俺が引いたおみくじ箱を持ってくる

「前も言いましたが、大吉は持ち帰つたほうが嬉しいじゃないです
か。それだけです。それに・・・」

「？」

そういうて神主は俺におみくじ箱を渡す。なんだ。持つて帰れてか?

「これ、大吉しかはいってませんから、運試しとかできませんし」

・・・・・はい?

「え、じゃ、もしかしてどれをとつても・・・」

「大吉しかだせませんよ?むしろこの中から中吉とか出したほうが
運がいいかもしませんね」

いや、そこ爆笑するところ違うくないですか?

結局、おれは一人ではしゃいでただけつつうか・・・恥かしつ・・・

!!!

とりあえず退散!!

しようときびすを返し、階段を下りようとしたところふつと思つた。

「俺・・・」で東大受けのとは一言も言つてない・・・

なぜあの神主のおっさんは俺が東大うけることを知つていた・・・?

そう思つてどうこうとか聞こつと思つて振り返つたら、その先にはさつ見ていた寺とはちょっと違つた寺があつた。

奥にはいつて神主をみつけて訪ねても、さつきと打つて変つてよぼよぼ爺さんだし。

おみくじひいたら中吉だつた。

数日後、俺と近くに住んでいるという先輩にあつたのでこの話をしてみると、その先輩もあつたことがあるらしい。

優しげな顔をして、おみくじは絶対持つて帰れという謎の神主と・

結局先輩もなぜかわからないままその謎の神主は消えていたらしい。しかし、どうしても謎が残るのがいやで、他にもあつたという人物をさがすと、必ずその神主を見た人はその年受験に合格するらしい。

ますます謎だつた。けど、

俺は非常識な人間ではない。本当は直接本人にあつていうのが礼儀だが、みつからないものはしじうがない。今度あつたらもう一度言うとしよう

「俺の前に出てきてくれて、」

ありがとう

(後書き)

本人的には前向きにいきたかったのですが、なんか変な感じに・・・
ていうかすこしミステリーチックになったのは気にしないであげて
ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9515d/>

大吉しかないおみくじ

2010年10月16日16時38分発行